

## 令和 7 年度 幼稚園における学校評価（自己評価）結果報告書

令和 7 年度、幼稚園において実施した、学校評価結果を報告いたします。

※ 幼稚園教職員により評価項目を設定、令和 8 年 3 月、教育活動および学校運営に関して自己評価を行いました。

### 【聖徳大学附属第二幼稚園】

#### 1. 学校の教育目標

建学の精神 「和」
-----------

#### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

<p>本園の幼児像「いつもにこにこ元気な子ども」を教育目標とし、以下の 5 つを具現化し、日々の保育を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康でたくましい子どもに</li> <li>2. 誰とでも仲良くできる子どもに</li> <li>3. しっかりと約束の守れる子どもに</li> <li>4. あいさつのできる子どもに</li> <li>5. 自分で考えて行動のとれる子どもに</li> </ol>
---

#### 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価結果の表示方法	
◎	目標点を大きく上回る
○	目標点に達する
△	目標点に届かなかった
×	施策を実施出来なかった

評価項目	結果	理 由								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育は本園の教育において重要な項目のひとつと考え、食べるだけでなく、座り方、食べ方、所要時間など食事のマナーを身につける。</li> <li>・箸づかいの評価基準を設定し、その結果を保護者に伝え、連携を図り、卒園時までに 90%の園児が習得できるようにする。 （「小さいときにおぼえておきたい生活のやり方」参照）</li> </ul>	△	<p>&lt;箸の調査結果&gt;正しく扱える園児（令和 8 年 3 月）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>満 3 歳児</th> <th>3 歳児</th> <th>4 歳児</th> <th>5 歳児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">7.4% (2 人)</td> <td style="text-align: center;">43.4% (20 人)</td> <td style="text-align: center;">50.0% (22 人)</td> <td style="text-align: center;">88.5% (54 人)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園当初、初めての給食に対し時間になっても手を出さず、口を開け、食べさせてもらうのを待っており『自分で食べようとしないう』姿が多く見られた。そのため、まずは給食に興味をもてる環境作りから始めた。メニューを紹介したり、おいしさについて身振り手振りを加えて説明したり、給食の大切さを伝えた。食べることができた時には大いに褒め、給食が楽しい時間となる工夫を繰り返し継続した。</li> <li>・咀嚼が上手いかず、食べない、噛めない、飲み込めないことがあった。ご飯はラップを使って丸めてひと口ご飯を作り、口に入れる量を調節しながら進めることで、食に対する意欲が芽生え、そして箸づかいについても、興味を示すようになってきた。</li> <li>・親指、人差し指、中指の 3 本を使って箸を持てるよう、個別にかかわり、毎月調査をしながら指導を重ねた。状況については、個別面</li> </ul>	満 3 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	7.4% (2 人)	43.4% (20 人)	50.0% (22 人)	88.5% (54 人)
満 3 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児							
7.4% (2 人)	43.4% (20 人)	50.0% (22 人)	88.5% (54 人)							

		<p>談で保護者に伝え、家庭での協力を仰ぐことで、正しく持てるようになってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで給食を食べる際には、友達の様子を観察する場面もあり、特に、異年齢の園児と関わることで松・梅組は、桜・パンダ組にとっての『身近なモデル』となり、手本となるよう張り切ったり、憧れをもち同じようにできるよう頑張ろうとしたりするなど、共に良い影響を与えていた。</li> <li>・保護者アンケートで『給食の量』について、多い、少ないなどのご意見を頂いた。個人の量に配慮しながら、年齢に合ったカロリーを摂取できるよう、栄養士とともに配慮していく。</li> <li>・目標値には達成できなかったが、今後も、食事に対する意欲を高めながら、食事のマナーを守り、さらに箸を正しく持って食事ができるよう食育指導を進めていきたい。</li> </ul>
<p>・ 基本的な生活習慣の自立 【排泄・衣服の着脱・挨拶の項目において自立を目指す。】 （「小さいときにおぼえておきたい生活のやり方」参照）</p>	<p>○</p>	<p><b>【排せつについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 月当初、パンダ組でパンツ登園できたのは 1 名。その後、保護者と連絡を取り、月齢や状況を確認しながら、個別にタイミングを考え、排泄の自立に取り組んだ。暖かい時期にオムツが外れるよう目標を決め、9 月には全員パンツで過ごすことができた。しかし、園内では、ずっと我慢し排泄ができない園児もいた。好きなキャラクターをトイレに貼ったり、できた時にはシールを貼ったり、達成感を感じられる環境を整えることで、3 学期には、排泄が全員自立した。</li> <li>・ パンダ組以外でも、入園、進級当初は慣れない環境に不安を感じ、失敗する様子も見られた。また、活動に夢中になり失敗することもあった。どのような場面でも叱ることなく対応し、体調の変化はないか、精神的な不安は無いか、園児の気持ちに寄り添いながら対応している。</li> </ul> <p><b>【衣服の着脱について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体操服に着替える経験を毎日繰り返すことで、衣服の着脱はほぼ全員が自立したと思われる。着替え完了後は楽しい遊びができる環境を整えることで、意欲的に取り組み、できた時の喜びを教師とともに共感することで、着替えの自立から他の活動への意欲も高まった。</li> <li>・ 着替えの際は、脱ぎ方、畳み方、袋への片付け方にも気付き、身につくよう声をかけ援助した。片付けの際、友達のものや自分のものを間違えて着替え袋に入れてしまうこともあった。今後は取違が無いよう着替える場所や服の広げ方などにも工夫が必要だと感じる。</li> <li>・ 制服に着替えた時は、ブラウスをズボンの中に入れられなかったり、ズボンの吊りが邪魔になったり、履きにくい状況もあった。そのため、令和 8 年度からは吊りをなくシウエストでしっかりと履けるズボンを販売することになっている。</li> <li>・ オーバーパンツの着用率も年々上がっているが 100%ではない。販売写真やホームページ、ポートフォリオ等、意図しない様子で画像として残る場合があるため、オーバーパンツ着用の重要性を理解していただけるよう保護者への声掛けを継続していく。</li> </ul> <p><b>【あいさつについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスに乗車、降車の際、また玄関での登降園時のあいさつは、声をかけられれば、ほぼ返すことができるようになってきている。長期休みも、家庭で自分から挨拶をするよう声をかけ、自分からの気持ちのいいあいさつを意識できるようにした。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児が当番活動として行った『あいさつ当番』。実施した当初は、声が小さかったり、照れ隠しでふざけてしまったり思うようにできない園児もいたが、少しずつこの状況に慣れてくると、笑顔であいさつを交わせるようになってきた。</li> <li>・園内にいらしたお客様に対しても、自分からあいさつできるようになってきている。友達が行っている姿を見て模倣している姿もあるが、あいさつができたことを褒め、誰にでもできるよう声をかけていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自由な発想や思いを表現し、主体性を高められる活動環境を整える。</li> </ul>	<p>○</p>	<p><b>【製作あそび】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンダ組では、指先を使ってシール剥がし張り付けるシール遊びが盛んで、多くの場面でシール遊び活動を進めた。指先に糊をつけることを嫌がる様子も見られたが、シール遊びを通し徐々に製作遊びに慣れ、糊の適量を指先に付けて作品を作ることもできるようになった。</li> <li>・手のひらを使い、桜紙を丸めて、好きな果物を作成した。一人10個以上丸めるため、中には途中でやめてしまう園児もいた。無理にその時続けるのではなく、別日に途中から作成することもあり、最終的には全員が根気強く作品を仕上げることができた。</li> <li>・作品を作り上げることで達成感も感じ、さらにその作品を運動会の被り物として使うことで、愛着を感じながら大切に扱う気持ちも育ってきている。</li> <li>・桜、梅、松組は家庭から箱やパックなどを持参していただき、園児が自由に製作遊びを楽しめるよう、本園オリジナルの製作台を安全に設定した。初めは箱の模様のかわいさや大きさに魅力を感じ、その箱を持つだけで、満足していたが、切ったり貼ったりできることがわかると、何かをイメージして作るようになった。</li> <li>・自分で活動を選び、自分の思いで活動を進められるようになってきたのは、主体性の高まりだと感じる。その活動が持続できる環境を一人ひとりの行動から読み取り、教師が設定することでさらに高まると思われる。今後も、安全な環境を保ちながら、ハサミやセロテープなどの道具や教材を使い自由に楽しめる環境設定が重要だと感じる。</li> </ul> <p><b>【発表ごっこ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段小さな声でも、マイクやペープサートをもち、保育室に小さなステージを作りつことで、いつもと違う環境の中で言葉を発する機会ができる。緊張感もあるが、繰り返し経験することで、自信がつき、自分の思いを言葉で伝えられるようになってきた。</li> <li>・5歳児においては、誕生祝会やそれぞれの行事の中で、はじめの言葉、終わりの言葉を全員が担当し、それを楽しみにしていたり、家庭で練習するなど、発表の場を多く設けた。経験した後は『ドキドキしたけど、楽しかった』などと、発表を嬉しいと感じる園児が多かった。</li> </ul> <p><b>【文字・言葉あそび】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉集めやしりとり遊びを通して、文字や言葉への興味が高まった。4歳児でも『あ』のつくものを探して、翌日にクラスで発表し、それを教師が書き留め保育室に飾った。言葉を可視化することで『こんなに集まったね』と、言葉の多さにうれしさや楽しさを感じ、また翌日にたくさんの言葉を発表する園児の姿が見られた。</li> <li>・文字への興味が高まっている5歳児では、毎月持ち帰る『しぜんの絵本』の名前を自分で記入している。まだ、進級当初書き順や形を覚えていない園児もいたが、個別の指導で劣等感を感じないように</li> </ul>

	<p>取り組める環境を作ることで、全員が 50 音、そして自分の名前をひらがなで書けるようになった。</p> <p><b>【お口の伝言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 歳児では昨年同様、幼稚園で必要なものを教師から園児に伝え、帰宅後園児が保護者に伝える『お口の伝言』を実施した。保護者の理解そして、園児の自立心も高まり、多くの場面で翌日対応ができた。忘れてしまった園児については落ち込む場面もあったが、次もチャンスがあることを伝え意欲につなげた。</li> <li>・ 園児が忘れ物をした際の担任からの声掛けで、園児が落ち込むことなく過ごすことができ、さらに次回からは忘れ物をしないという園児の意識の高まりが見えたエピソードがアンケートで報告された。年齢が低い園児でも、持ち物の管理を親ではなく自分でできる能力はあり、その環境を家庭や幼稚園が整えることが大切であることを今後も伝え、園児の自立心につなげていく。</li> </ul> <p><b>【リズムあそび】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 月の生活発表会、10 月の運動会、そして 2 月に行われた一年の集大成としての表現発表会『たのしみまショー』などの行事を通し、園児様子をご覧いただいた。アンケートにおいて「まあまあそうだと思う」も含め、100%の方が幼稚園行事を通してお子様の成長を感じていただけた。</li> <li>・ ステージで踊ったり、歌ったりするだけでなく、大道具操作や控室での並び方、待ち方なども園児にとって大きな学びである。時には、友達に場所を教えてあげたり、お休みの園児のセリフを積極的に言ってみたり、いつもと同じことの繰り返しではなく、『今日はどうしよう』と自分たちで作りに上げることができるようになってきている。</li> <li>・ 行事に向けた活動は、今後の成長につながっていると思われる。</li> <li>・</li> </ul> <p><b>【ちびっこ劇場】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『たのしみまショー』終了後、幼稚園内でリズム遊びを見せ合う『ちびっこ劇場』を行った。年齢の低い学年でも長時間にわたる他学年のリズム遊びに興味をもち、真剣に観る姿があり、幼児同士の伝え合いは幼児の記憶に強く残り、それを模倣し、実現しようとする幼児主体の活動へとつながると感じる。</li> <li>・ 主体性につながる、意欲や協調性などの非認知能力を数値化することは難しいが、確実に幼児ができるようになったことが増えており、主体性は高まってきていると感じる。</li> </ul>
--	---

<p>・安全に遊ぶことができる環境づくりや感染症対策を進める。</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登園時の視診をそれぞれの教職員が行い、変化に気づけるよう対応している。また、変化があれば保護者に連絡をとりお迎えをお願いし、園児の安全を第一に対応している。</li> <li>・2 学期後半に、インフルエンザが流行した。全国的に流行が見られたインフルエンザではあったが、近隣の小中学校の状況、そして本園の状況を『健康だより』として保護者に伝えた。感染が園内でも確認され、学級閉鎖も実施したが「やや満足」も含め 87.4%の方に感染症対策については満足していただけた。</li> <li>・感染症罹患後、登園する際についての報告方法もアプリ登録対応（登園届）となったが、紙での提出や、登園届の登録もせずに登園する場合もあった。若い園児の集団が安全に過ごせるよう、感染対策があり、ご理解いただけるよう再度周知する必要がある。</li> <li>・普段のクラスや学年活動では、小さな怪我でも担任からの報告あるため安心できるが、預かり保育の場合、報告が少ないように感じるとのアンケートでのご意見を頂いた。年々預かり保育利用数が増える中、教職員は複数人で対応しており、申し送りが不十分な時があった。アンケートのご意見を真摯に受け止め、今後状況について保護者にお伝えできるよう、記録を残し対応していく。</li> <li>・園内の施設、遊具等について、園児が安全に遊ぶことができるよう、掃除を通して点検を行い記録している。また、教員が園児と一緒に遊具で遊んだり触ったりすることで、常に安全確認ができるよう、配慮している。</li> <li>・今後も状況に応じて安全対策の改善を含め、適切に進めていく。</li> </ul>
-------------------------------------	----------	---

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本園の教育、運営等について、令和8年3月に実施した「幼稚園に関するアンケート」で『幼稚園の行事を通してお子様の成長を感じられましたか』『教職員の言葉遣いや身だしなみは適切ですか？』の問いには、「はい」「まあまあそうだと思う」を合わせて100%の方々からご理解を頂くことができた。しかし、それ以外の問いに対しての回答では、少数ではあるが不満を感じている保護者もあり、改善していく必要性は高いと感じる。園児に対して担任の関わりはもちろん、他の教職員も含め、園全体で園児一人ひとりの成長を促すことができるよう、普段から園児の名前を覚え、変化や成長に気づき、声掛けをするなど関わりをもちながら対応していくことを今後も継続していく。</li> <li>・『預かり保育（ドリームキッズ）は、役立っていますか？』の問いについては、「まあまあそうだと思う」も含めて98.1%の方が役立っていると回答をいただいた。預かり保育の利用数は年々増加しており、利用する園児・保護者が安心できるよう、安全な環境と充実した時間の提供工夫を進める。また『おやつの量』『園児の様子についての報告』にもいくつかのご意見もあった。おやつについては栄養士も交え検討し、活動においては教職員の連携を図り、縦割り保育の良さを感じながら過ごせるようにする。</li> <li>・今回のアンケート全般において、おおむね本園の教育にご理解を頂いている結果となった。自由記述の中には、多くの励ましの言葉や感謝の言葉、教職員自身が気付いていない本園の良さなどもあり、教職員一同今後の原動力の一つとなった。</li> <li>・本園の理想とする幼児像『いつもにこにこ元気な子ども』の実現のため、今後も保護者の方々のご理解とご協力を得られるよう、さらに、園児を取り巻く状況を考慮しながら、園児、保護者の思いに寄り添い、対応できる部分は改善しながら教育を進めていく。</li> </ul>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
<p>・園児主体の保育環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心した気持ちで登園できるよう、スキンシップを大事にしながら園児の気持ちに寄り添い、自己発揮できる環境を設け、安心して表現できる環境を整える。</li> <li>・集団生活での約束があることを知り、それを理解し守れるよう規範意識を高めながらも、自由に遊べる環境のもと、自分のことは自分でやろうとする自立心を育てる。</li> <li>・CDデッキを操作して音楽を自分で自由に流したり、楽器に触れたり、いろいろな材料を使って自由に製作を楽しむ環境を整える。特に製作については、園児の身近にある牛乳パックや箱、カップなどを利用し、また、ハサミやホチキスなどの道具についても安全に使えるよう環境を整える</li> <li>・園児の思いや興味・関心をとらえ、カリキュラムを基準にしながら園児主体の保育を進め、遊びを通して学べる環境を整える。そして、何が育ったのかをポートフォリオなどで可視化し保護者に伝える。</li> </ul>
<p>・子育て支援の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児だけでなく保護者も安心して我が子を幼稚園に送り出せるよう、受け入れや、降園時に声をかけ、情報を共有しながら寄り添い相談できる場として幼稚園の役割を進めていく。</li> <li>・食育として食事マナーや正しい箸の持ち方の習得、偏食の改善を進めながら、令和6年度からの週5回の給食提供は好評であり、子育て支援の充実を図る一つの要因となっている。今後も給食や預かり保育などを充実できるようにすすめる。</li> <li>・未就園児の保護者対象に本園の教育に興味をもちご理解いただけるよう、ホームページやLINEなどで情報を広く伝え、休園日などを利用した園内での活動（SEITOKU オープンキンダーワールド）を実施していく。また、幼稚園の教育、良さを感じて頂けるよう、園内見学などを実施し、さらに、『子育て広場』や近隣施設との連携をすすめる。</li> </ul>
<p>・預かり保育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安全な預かり保育の充実を図り、遊びを通して育ち学べる環境を整える。</li> <li>・他学年との関わりを通して学べる事や成長していることについて、保護者に認識していただけるよう、ホームページの更新を頻繁に行い伝えていく。</li> <li>・就労状況に関わらず、預かり保育が保護者のリフレッシュできる環境の一つとなるよう、安全と充実を図りながら環境を整えていく。</li> </ul>